

教科教室制の特色を活かした確かな学力の向上

～基礎・基本の習得と言語活動の充実を通した
思考力・判断力・表現力の育成を目指して～



| | |
|-------------|---|
| ○学校名 | 加須市立加須東中学校 |
| ○所在地 | 加須市花崎1丁目22番地1 |
| ○電話番号・FAX | 0480-65-2206・0480-66-0599 |
| ○E-mailアドレス | k-higashi@city.kazo.lg.jp |
| ○ホームページ | http://www.city.kazo.lg.jp/school/s759010/index.html |

1 研究主題

「教科教室制の特色を活かした確かな学力の向上」

～基礎・基本の習得と言語活動の充実を通した
思考力・判断力・表現力の育成を目指して～

(1) 研究主題設定の理由

本校の生徒の学習に関する実態として、全国や県の学力・学習状況調査等の結果から分析すると、「人の役に立ちたい」「勉強は大切である」と思っている割合は高いが、自己肯定感や自己実現意識が低い傾向が見られた。また、家庭での学習時間については、30分以内や全くしない割合が高く、「家庭学習の習慣化が図られていない」という課題が見られた。その結果、「基礎的・基本的な学力の定着」や「思考力等の活用力」も課題となっている。そこで、本校の特色である教科教室制のメリット（①教科の専門性や特性を活かした学習環境を整備することにより学習意欲を高めることができる。②多様な学習形態や指導方法の工夫することなどに適しており、生徒の主体的・協働的な活動を通して、思考力等の活用力の育成が期待できる。）を活かし、生徒の学習意欲を引き出すとともに、「基礎・基本の習得」と「言語活動の充実」を通した授業展開を研究することで、思考力・判断力・表現力の育成を図りたいと考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究の具体的内容

ア 教科教室制を活かした学習指導の工夫改善

- ①思考力・判断力・表現力を高める対話型、協調学習（アクティブ・ラーニング）
- ②「東中学びのスタイル」の構築
(学習プロセスの3要素 ①外化 ②共有 ③リフレクション)
- ③課題、展開、ふり返りを意識した板書の工夫
- ④達成度の検証をもとにした指導と評価の一体化
- ⑤学習意欲を引き出すための教科教室の環境整備と活用方法の工夫
- ⑥「東中学びのすすめ」と「東中シラバス」の作成と実践

イ 基礎・基本の習得

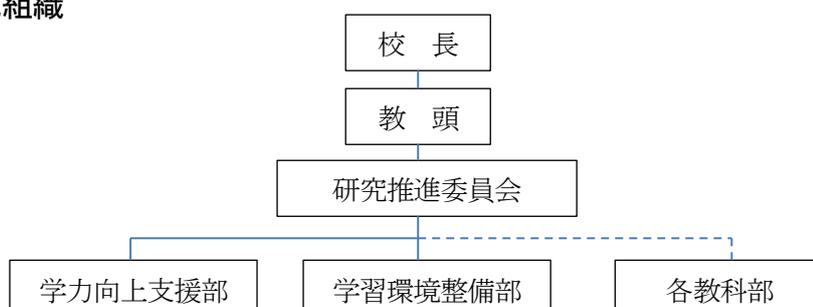
- ①朝自習（国語、数学、英語）、各教科での小テスト等の実施
- ②読書活動の充実（朝読書、読書週間）
- ③東中チャレンジの実施（学期に1回、国語、数学、英語）、表彰
- ④補習の実施（水曜日の放課後の補習、東中3R作戦、サマースクールなど）

ウ 家庭学習の定着

- ①家庭学習・生活記録ノートの全校的取組
- ②家庭との連携、啓発（各種通信の発行、学校公開、懇談会など）
- ③家庭学習の習慣化（家庭学習の手引き）
- ④宿題の出し方、確認の仕方の工夫

2 研究の実践

(1) 研究組織



(2) 学力向上支援部

学力向上支援部では、生徒が学校や家庭で主体的・継続的な学習に取り組み、確かな学力の向上が図られるよう、以下の取組を行う。

- ア 授業改善（東中スタイルの構築）、授業規律の徹底
- イ 学習の仕方、学習支援
- ウ 基礎・基本の定着、学習成果の可視化
- エ 授業と家庭学習の連携
- オ 心の安定、健康な生活（東中まごころプラン）

(3) 学習環境整備部

学習環境整備部では、学習環境を整えることで生徒の学びをサポートし、確かな学力の向上が図られるよう、以下の取組を行う。

- ア 教科教室の環境整備
- イ 家庭学習の習慣化
- ウ 生徒の実態把握と家庭との連携

(4) 各教科部

各教科部では、各研究部の話合いや校内研修等を受けて、教科ごとの取組を行い、確かな学力の育成が図られるよう、以下の取組を行う。

- ア 教科の特質を活かした教科教室の有効活用
- イ 教科経営グランドデザインをもとにした指導方法の工夫改善
- ウ 各教科における基礎・基本の定着
- エ 思考力・判断力・表現力の育成を目指した研究授業（アクティブ・ラーニング）

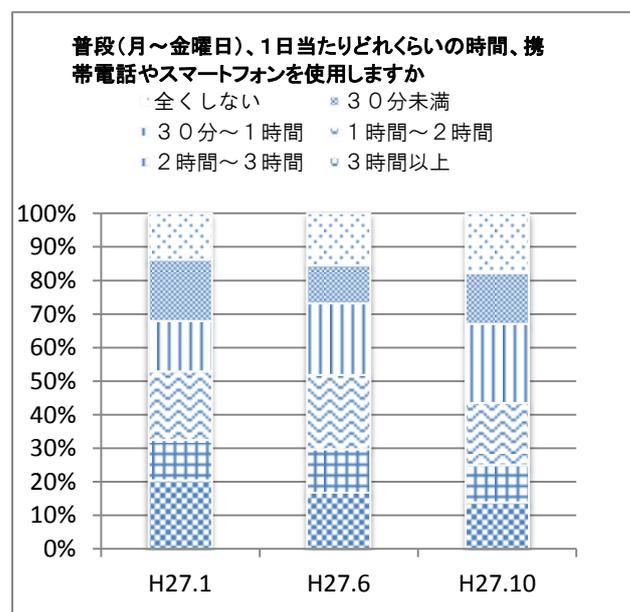
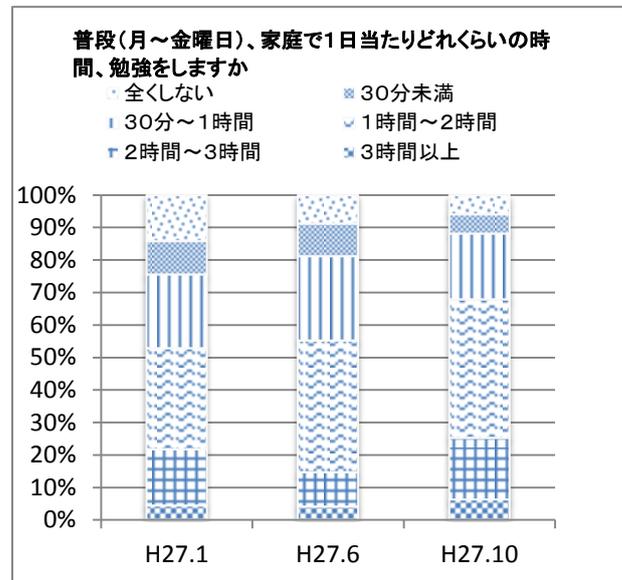
3 これまでの研究の成果と課題

(1) 成果

- ア 教科教室制を活かした学習指導の工夫改善
 - ①教科教室制のメリットを活かした環境が整備され、生徒の主体的・協働的な学習のステップアップが図られた。
 - ②「東中スタイル」を意識した学習指導の工夫改善により、学び合いや教え合いの

ウ 家庭学習の習慣化

- ① 学力向上支援部、学習環境整備部、各教科部が連携して家庭学習の習慣化を図る全校的取組を行ったことにより、家庭学習の習慣化が図られた。
- ② 通信等でアンケートの結果や家庭学習ノートの使い方、取組の状況を家庭に伝え家庭と連携して生活習慣の改善を図ったり、朝読書や読書週間による本に親しむ取組を行ったりした結果、生活習慣の改善が図られ、家庭学習の習慣化が図られた。



(2) 課題

- ア 各教科におけるB問題「活用」型の問題解決学習や学習プロセスを意識したアクティブ・ラーニングの引き続きの推進が必要である。
- イ 小・中9ヵ年を見通した確かな学力の育成に取り組む必要がある。
- ウ 「基礎・基本の定着はすべての生徒に」を目指して取組の継続・発展を図りたい。
- エ 学校と家庭が生徒の学習習慣や生活習慣の課題を共有し、協働できるための連携(合同研修会、学級懇談の充実等)の強化を図りたい。